



たなか さとえ
田中 里枝
職業安定局 首席職業指導官室
中央職業指導官

こんにちは。小2と年中の子がいるため、勤務時間を短縮できる育児時間制度を利用しています。30分単位で最大2時間短縮でき、日々の状況に合わせて退庁時間を調整しながら仕事をしています。また、子どもの病気や授業参観等への対応のため、月に1~2回ほどテレワークを活用しています(通勤時間をカットでき、その分を仕事に充てられるのが利点!)。働ける時間が限られたり、子どもの急な病気への対応など職場に迷惑をかけることも多々ありますが、担当業務の進捗状況を上司や同僚と常に共有するよう心がけており、職場の理解と助けのおかげでバランス良く両立できることに心から感謝の毎日です。

退庁後は子どもをピックアップし、午後7時前に帰宅、夕食を作り食べさせ、お風呂に入れ、寝かしつけ、合間に洗濯や掃除(食洗機やロボット掃除機も活躍!)、食料品等はネットスーパーで調達(朝の通勤電車内からスマホで注文、帰宅後に受取りで便利!)、と慌ただしい毎日です。

育児休業中に知り合ったママ友たちとの交流も続いており、子どものアルバムづくり(スクラップブック)をしながら、働くママ同士で日々のストレスや悩みを共有・発散できるのも楽しみの一つです。

しぶや ゆきひろ
渋谷 幸央
職業安定局 公共職業安定所
運営企画室 管理係

ワークライフバランス。私にとっての「ライフ」は家族との時間です。

私は、妻と娘と3人で上京し、厚生労働省に入省しました。

国民に最も身近な行政を司る厚生労働省。雇用分野だけでも障害者雇用や外国人雇用等、喫緊の政策課題を持つ役所には、当然取り組むべき多くの仕事があります。小さい娘を抱えて本当にやっつけられるだろうか。不安はありましたが、働いてみてそれは一掃されました。

1か月に1日以上の有給休暇を取得するマンスリー休暇、在宅勤務を可能にするテレワークの実施、夏期期間に仕事の開始時間を早めて、早い時間の帰宅を可能にする「ゆう活」、紙幅が限られているのでこの程度に留めますが、まだまだ利用できる制度はあります。

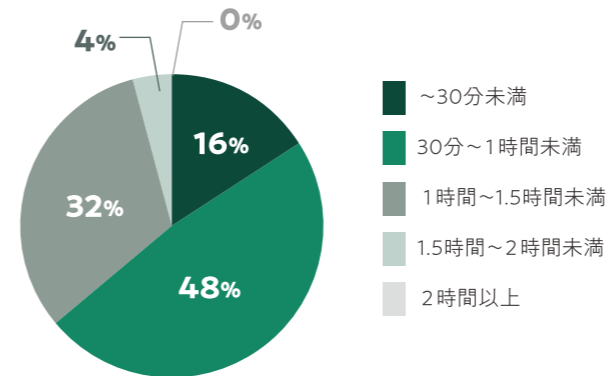
また、上司は小さい子どもをもつことへの配慮から「仕事はほどほどにして帰ったら?奥さんと娘さんに嫌われちゃうよ(笑)」と日々私に声をかけ、無理のない業務量になるよう調整してくださっています。

豊富な制度と理解ある職場環境。これらのおかげで充実した職業・家庭生活を送ることができています。1人だった娘も、この間に2人に増えました。私が感じている「働く幸せ」を国民の方々全員が感じることができる社会の実現のために、微力ながらも貢献できるよう、と同時に家族のためにも努力していきたいと思っています。

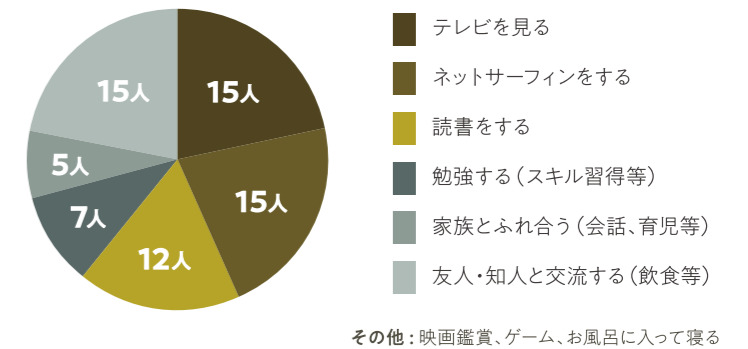


ワークライフバランスに対する若手職員の声~人間科学職採用の先輩(入省9年目まで)25名に聞きました!~

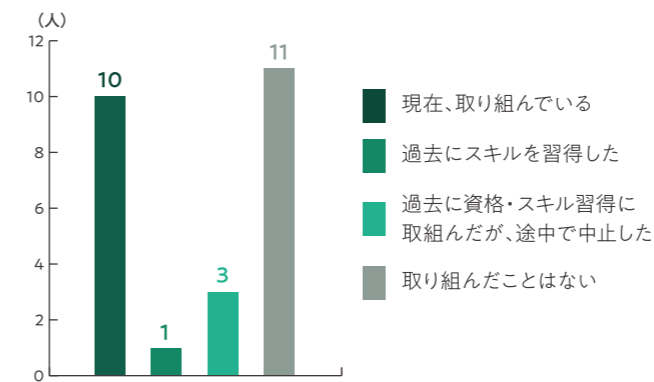
Q1 通勤時間はどのくらいですか?



Q2 平日の夜はどのように過ごしますか? (複数選択可)



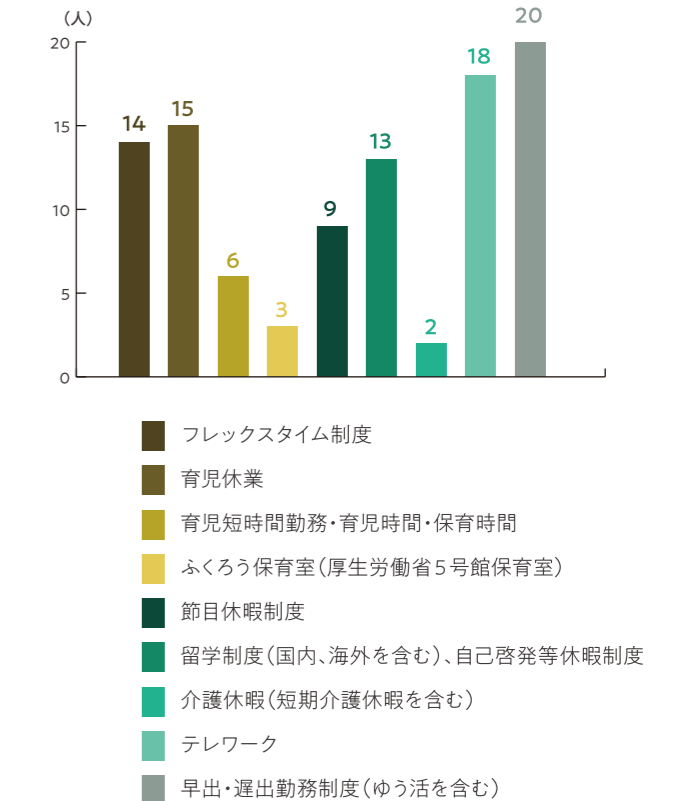
Q3 自己研鑽のための資格・スキル習得に取り組んでいますか? (もしくはこれまでに習得しましたか?)



◆取り組んでいる(または習得した、取り組んでいた)資格・スキルはなんですか?

社会保険労務士、保育士、語学(英語(リスニングのみを含む))
簿記、プログラミング、業務に関係のある分野の情報収集
法令知識、キャリアコンサルタント、公認心理師、臨床心理士

Q4 今後より積極的に活用したいと思う諸制度はありますか?(複数選択可)



Q5 業務のどんなところが楽しいと思いますか?

- ◆ 毎日の新聞に反映されるような責任重大でやりがいのある仕事ができる場所
- ◆ 様々な考え方の人と接し刺激を受けることのできる業務が多いところ
- ◆ 自分の作った文書や方針が土台となって、制度運営に反映される場所
- ◆ 学術的な面でも勉強しながら作業することができる場所
- ◆ 国民の生活に密接に関係するような政策に携われる場所
- ◆ 日々新鮮な気持ちで業務に向き合うことができる場所
- ◆ 各分野の著名な有識者と仕事をできる場所
- ◆ 係単位で業務が全く違うため、異動の都度、新しい知識が得られる場所
- ◆ 省内外の方とやりとりができる場所
- ◆ 議員の質問に対する回答作成など、国家公務員ならではの仕事に携われる場所